

「中世英文学談話会」

研究発表・シンポジウムにおける発表者とテーマ

(1966年11月5日～1984年7月14日)

第1回研究発表会 (1966年11月5日、明治学院大学)

研究発表 司会 生地竹郎

1. 岡富美子：*Anglo-Saxon Chronicles* に於ける Genitive
2. 酒井倫夫：OE 詩 *Dream of the Rood* の文体について
司会 池上忠弘
3. 佐藤林平：英語定動詞の位置について（その歴史的考察）
4. 鈴木栄一：緑の騎士の正体
5. 比良俊典：キャンタベリ巡礼の世界

第1回シンポジウム (1967年11月25日、明治学院大学)

シンポジウム *Sir Gawain and The Green Knight* について

司会 池上忠弘

1. 池上忠弘：*SGGK* as an Aristocratic Romance
2. 鈴木栄一：*SGGK*における伝統的表現の意味
3. 中尾俊夫：Grammar for Poetry—とくに韻律と語順を中心に
4. 寺澤芳雄：Syntax and Poetry

第2回研究発表会 (1968年7月6日、青山学院大学)

研究発表 司会 寺澤芳雄

1. 苅部恒徳：*The Story of Cynewulf and Cyneheard* の一解釈
2. 佐藤修二：*Beowulf* について
司会 都留久夫
3. 佐々木富美雄：*Parlement of Foules* の文体—‘that’ の用法
4. 松井倫子：*Sir Gawain and The Green Knight* における宗教的要素について[注1]
4. 小原節子：コロンビア大学における中世ヨーロッパ比較文学[注2]
5. 中尾俊夫：論文紹介

[注1：中世英文学談話会会報 No.4 による。注2：同 No.5 による。]

第2回シンポジウム (1968年11月30日、慶應義塾大学)

シンポジウム Chaucer：*The Book of the Duchess* について

司会 都留久夫

発表者 繁尾 久、小長谷弥高、生地竹郎、都留久夫

第3回研究発表会 (1969年7月12日、慶應義塾大学)

研究発表 司会 繁尾 久

1. 佐藤邦宏 : For to-Infinitive in *Sir Gawain and The Green Knight*
2. 上村 巖 : *The Book of the Duchesse* における諸表現

シンポジウム *Beowulf* をめぐって (討論)

司会 寺澤芳雄、忍足欣四郎

第4回研究発表会 (1970年12月20日、慶應義塾大学)

研究発表 司会 繁尾 久

1. 吉見明德 : *Beowulf* 詩人を中心とした構成上の問題点について
2. 柳原伊織 : ‘*Katharine Group*’ の統語法について
司会 中尾俊夫
3. 川澄哲夫 : An Observation on the Use of Adjective in *Sir Gawain and the Green Knight*
4. 鈴木栄一 : *Sir Gawain* の積義的な解釈—Hans Schnyder と＜誘惑の挿話＞

第5回研究発表会 (1971年7月11日、東京教育大学)

研究発表

1. 三上敏夫 : Hrodgar と *Beowulf*—「王」の性格をめぐって
2. 高宮利行 : Wade in *Sir Thomas Malory*—“Arthur & Lucius” と “Tale of Gareth” の相対的制作年代に関する一考察
3. 斎藤朋子 : *Sir Gawain and the Green Knight* と *The Knight's Tale* における騎士像
4. 松井倫子 : *Pearl* における宮廷風文体 (courtly style) の二重性とその変貌

第6回研究発表会 (資料未見)

第7回研究発表会 (資料未見)

第8回研究発表会 (1972年7月15日、東京教育大学)

研究発表 司会 繁尾 久

1. 河崎征俊 : *Pearl* 試論—夢と光をめぐって
2. 高宮利行 : Malory の “Tale of Gareth” —その構成と意味

3. 春田節子：Griselda 物語のテーマをめぐって
司会 広瀬泰三
4. 藤原保明：*Floriz & Blauncheflur* の音韻について
5. 小野 茂：中英語研究における諸問題

第9回研究発表会（1972年12月23日、東京教育大学）

研究発表 司会 小野 茂

1. 佐藤林平：MS. Cotton Vitellius A xv に含まれた3つの散文における
分詞について
2. 岩田洋子：チャーサーの比喩表現について
司会 安東伸介
3. 池上忠弘：ME 写本の研究 一帰朝報告

第10回研究発表会（1973年7月14日、東京都立大学）

研究発表 司会 中尾俊夫

1. 小倉美恵子：*The Owl and the Nightingale* の書記素論
2. 町田尚子：Late ME の that-clause における否定について
司会 松浪 有
3. 松井倫子：中世英文学における Allegorical Vision について
4. 渡部昇一：*Beowulf* における都市のイメージについて

第11回研究発表会（1973年12月22日、東京青山会館）

研究発表 司会 小林栄智

1. 秋元実治：‘After’ と ‘For’ の交替—14・15・16世紀
2. 藤原 博：OE マタイ伝における語順の問題
司会 寺澤芳雄
3. 生地竹郎：14世紀の英詩と告解の秘蹟

第12回研究発表会（1974年7月13日、東京青山会館）

研究発表 司会 藤原 博

1. 岸田隆之：*Alfric's First Series of Cathoric Homilies* における前置詞の
Semantic Paradigm について
2. 土屋唯之：*Ancrene Riwe* における語順について
司会 忍足欣四郎
3. 佐藤修二：OE 詩の解釈について
4. 松浪 有：頭韻詩のリズム

第 13 回研究発表会 (1974 年 12 月 15 日、東京青山会館)

研究発表 司会 池上忠弘

1. 小田卓爾：帰朝報告から一サクソニストのことなど
2. 久保内端郎： *The Dictionary of Old English* 編纂について
司会 中尾俊夫
3. 宮崎忠克：古英詩における頭韻構成についての一考察
4. 宇賀治正朋：初期近代英語における補文標識 “to” の出沒について

第 14 回研究発表会 (1975 年 7 月 12 日、上智大学)

研究発表 司会 岩崎春雄

1. 吉野利弘：A Restriction on Passivization in Old English
司会 都留久夫
2. 宮島澄子：Morality Play の Staging について
3. 春田節子：Gottfried の *Tristan* と Wulfram の *Parzival* について
司会 関本栄一
4. 羽田陽子： *Ancrene Wisse* と The Katherine Group
5. 佐々部英男： *The Owl and the Nightingale*—翻訳について

第 15 回研究発表会 (1975 年 12 月 20 日、上智大学)

研究発表 司会 忍足欣四郎

1. 大関康博： *Beowulf* における同義語「海」の役割について
2. 小林栄智：The OE Version of *Apollonius of Tyre*
司会 寺澤芳雄
3. 成瀬正幾： *Pearl* におけるいわゆる過剰スタンザについて

講演

司会 生地竹郎

橋口倫介：十字軍クロニクラーについて

特別講演会 (1976 年 3 月 23 日、上智会館)

司会 小林栄智

Prof. H. L. Rogers : The Style of Old English Poetry, especially *Beowulf*

[注：この年月日は、第 13-16 回研究発表会の訂正版を掲載した会報 No.14 に準拠。
会報 No. 15 では昭和 52 年 (1977 年) となっているが、前者が正しいと判断する。]

第 16 回研究発表会 (1976 年 7 月 24 日、東北学院同窓会館)

研究発表 司会 酒井倫夫

1. 衛藤安治：*Ancrene Riwe (or Wisse)* における主語としての不定詞について
2. 岸田直子：非人称構造をどう派生させるか 変形文法による分析
司会 繁尾 久
3. 水野知昭：*Metaphor as Emotional Expression in Beowulf*
4. 河崎征俊：『カンタベリー物語』における色彩語について

第 17 回研究発表会 (1976 年 12 月 11 日、上智大学)

研究発表 司会 池上忠弘

1. 松田 英：*The Franklin's Tale* における “gentillesse”
2. 小倉美恵子：*Metrics of Chaucer's Troilus and Criseyde*
3. 小田卓爾：いわゆる「あらし」の謎詩について

スライド 水鳥喜喬：*Gawain* 卿の旅—北ウェイルズからウィラル半島へ

帰朝報告 司会 小野 茂

都留信夫 寺澤芳雄

特別講演会 (1977 年 4 月 9 日、上智大学)

Prof. Peter Clemons : Some Ways of Linking the Past to the Present in Old English Narrative Technique

第 18 回研究発表会 (1977 年 7 月 23 日、新潟大学)

研究発表 司会 桜庭一郎

1. 塩見知之：*Chaucer の The Parlement of Foules* の構成と意味
2. 小池一夫：*The Saxon Chronicles* における省略語及び省略符号について
司会 寺澤芳雄
3. 小野 茂：古英語における *cognoscere* と *intelligere* の訳語について

帰朝報告 尾藤 充：*York* に暮らして

フィルム (16mm) 上映

司会 秋元実治

「チャーサーの *Pardoner's Tale*」

第 19 回研究発表会 (1977 年 12 月 10 日、青山学院大学)

研究発表 司会 繁尾 久

1. 水野知昭：*Beowulf* における ‘Grendel Part’ の儀礼的解釈について
2. 多ヶ谷有子：二つの聖杯伝説マロリー “*The Quest of the Holy Grail*” と十三世紀散文ロマンス *La Queste del Saint Graal*

司会 中尾俊夫

3. 松原拓郎 : King Alfred's *Boethius* にみる Subjunctive について
4. 福島 治 : Chaucer における reflexive verbs について
司会 岡 三郎
5. 池上恵子 : ME 版 *Barlaam and Josaphat* と *Everyman* の関連について
6. Miriam Skey : Herod the Great in Medieval Drama

第 20 回研究発表会 (1978 年 7 月 1 日、青山学院大学)

研究発表 司会 寺澤芳雄

1. 小倉美知子 : OE 散文における *Cwedan* と *Secgan*
2. 保谷一三 : On 'amatus sum' and 'beo gelufod'
司会 都留久夫
3. Judith Newton : Chaucer in a Seventeenth-century Toga: Sir Francis Kynaston's
Latin Translation of and Commentary on *Troilus and Criseyde*
(1630's)
4. 斎藤 勇 : Criseyde の賢さ

中世イギリスの音楽

解説 金沢正剛

出演 唐津東流

講演会 (1978 年 9 月 11 日、青学会館)

Dr. Alexandra F. Johnston : The York and Towneley Cycles as Didactic Drama

第 21 回研究発表会 (1978 年 12 月 9 日、青山学院大学)

研究発表 司会 宮部菊男

1. 久保内端郎 : Richard Rolle の英文書簡体作品における語順について
2. 野口俊一 : キャクストンがマロリーの文体から学んだこと
司会 都留久夫
3. 高宮利行 : アストラットの系譜
司会 生地竹郎
4. 石井美樹子 : The figure of Joseph and the Use of Proverbs in the *Coventry Plays*
5. 池上忠弘 : 中世英文学の特質

講演会 (1979 年 6 月 11 日、国際文化会館)

Dorothee Metlitzki 教授 : The Matter of Araby in Medieval English

第 22 回研究発表会 (1979 年 6 月 30 日、東京大学)

研究発表 司会 小林栄智

1. 井出 光：“Was Geworden”
2. 小倉美恵子：ME ē の発達過程について
司会 生地竹郎
3. 小林絢子：チャーサーの「トロイルスとクリセイデ」およびその近代英語訳におけるトロイルスとクリセイデの性質を表わす用語の比較
4. 河崎征俊：*The Canterbury Tales* の女性イメージについて

帰朝報告 忍足欣四郎：オックスフォードより帰って

特別講演 皆川達夫：中世ヨーロッパの音楽について

第 23 回研究発表会 (1979 年 12 月 8 日、東京大学)

研究発表 司会 藤原 博

1. 福士直子：Marriage Group における Gentillesse
2. 柳 さよ：*The Ancrene Riwe* の完了時制について
司会 忍足欣四郎
3. 高宮利行：英国中世写本研究に関する 2、3 の問題
4. 長谷川寛：サトン・フー船葬墳と『ベーオウルフ』について

シンポジウム チャーサーとゴシック芸術

司会 繁尾 久

発表者 生地竹郎、都留久夫、池上忠弘、斎藤 稔

講演会 (1980 年 3 月 26 日、国際文化会館)

Celia Sisam 女史：Men's Imperfection: A Theme in the Works of the *Gawain* Poet

講演会 (1980 年 6 月 7 日、明治学院大学)

Angus Cameron 教授：The Language of *Beowulf* and the Date of the Poem

第 24 回研究発表会 (1980 年 7 月 5 日、東京大学)

研究発表 司会 柴田黎児・苅部恒徳

1. 保谷一三：『カンタベリ物語総序文』におけるラテン語フランス語借用語について
2. 山内一芳：OE 詩の頭韻と定動詞

3. 小川和彦：OE のエレジーについて
司会 野口俊一
4. 鈴木栄一：ME 頭韻詩と口誦定形句理論
5. 黒瀬 保：John Lydgate の作品における運命の女神

第 25 回研究発表会 (1980 年 12 月 6 日、東京大学)

研究発表 司会 小長谷彌高

1. 松田 英：Criseyde の変心
2. 黒川樟枝：中世演劇のアナクロニズム—The Towneley Cycle の場合 帰朝報告

司会 中島邦男

1. 羽田陽子：エディンバラより帰って
2. 池上 昌：Late ME の /lic/ と /ouxt/ について

特別講演

司会 寺澤芳雄

Dr. Sally P.J. Fielding : The Domesday Book—What it tells us about Medieval
England

講演会 (1981 年 3 月 23 日、東京大学)

Raymond P. Tripp, Jr. 教授 : A Reconsideration of the Textual Evidence For the
Existence of a Thief in *Beowulf*

講演会 (1981 年 6 月 6 日、学習院大学)

Karl Schneider 教授 : On Camouflaged Paganism in Anglo-Saxon England

第 26 回研究発表会 (1981 年 7 月 4 日、西南学院大学)

研究発表 司会 小野 茂

1. 土家典生：Needfire について
2. 吉野利弘：OE の詩と散文との形式的特徴の差について

映画 「ヴァイキング」 The Vikings: Life and Conquests

研究発表 司会 高橋 久

3. 下笠徳次：Chaucer's Colloquial Style in *The Parson's Tale*
4. 関本栄一：中世英文学における現実的女性像—主として Chaucer と
Dunbar の場合

第 27 回研究発表会 (1981 年 12 月 5 日、学習院大学)

研究発表 司会 水鳥喜喬

1. 衛藤安治 : *Laèamon's Brut* における非人称動詞 *pynchen* について
2. 宮崎忠克 : *Three Comments on Exodus*

帰朝報告 司会 松浪 有

高宮利行 : 英国における写本研究の現状について

池上忠弘 : 国際アーサー学会報告

司会 都留久夫

3. 武井久美子 : *Friar* に見るチャーサーの聖職者批判
4. 黒瀬 保 : 修辭的連続性—*Sententia* と *Imagery*

第 28 回研究発表会 (1982 年 7 月 10 日、学習院大学)

研究発表 司会 斎藤 勇

1. 松田隆美 : 中世英語における The “*Ubi Sunt*” *Mentality*
2. 石井美樹子 : *The Medieval Art of Preaching and the Weaver's Pageant*

国際学会報告

Miriam Skey : *The International Congress on Medieval Studies*

第 29 回研究発表会 (1982 年 12 月 4 日、学習院大学)

研究発表 司会 繁尾 久

1. 不破有理 : グローブ版 *Malory* とヴィクトリア朝のアーサー文学
2. 藤原保明 : 古英詩の余剰頭韻と強勢について

シンポジウム ふたたび「ベオウルフの構造と意味」について

発表者 忍足欣四郎、佐藤修二、長谷川寛

特別講演 (1983 年 5 月 7 日、国際文化会館)

司会 鈴木栄一

Marie Borroff 教授 : *Gawain-poet and the Authorship of St. Erkenwald*

第 30 回研究発表会 (1983 年 7 月 2 日、明治学院大学)

研究発表 司会 石井美樹子

1. 田卷敦子 : 『農夫ピアズの夢』における無学な下層階級の救済
2. 黒川樟枝 : ヨーク劇 *The Harrowing of Hell* の演出について

司会 小倉美恵子

3. 池上 昌 : *Open Syllable Lengthening* と ME の脚韻

特別講演

司会 松浪 有

1. 小野 茂 : ‘Winchester’ word としての *undergytan*

2. 齋藤 勇：『カンタベリ物語』はなぜ巡礼なのか

第 31 回研究発表会 (1983 年 11 月 19 日、東北学院大学)

研究発表 司会 柴田黎児

1. 奥田宏子：サイクル劇における旧約と新約グループ
2. 柴田良孝： *The Parlement of The Thre Ages* 一考

海外学会近況 高宮利行 長谷川寛

シンポジウム *The Wakefield Secunda Pastorum* を考える

司会 池上忠弘

発表者 宮島澄子、黒川梢枝、石井美樹子、橋本 侃、米村泰明

特別講演 (1983 年 12 月 3 日、明治学院大学)

司会 高宮利行

Richard Barber 氏：Arthur in History and the Early Development of the Legend

特別講演 (1984 年 5 月 6 日、慶応義塾大学)

司会 安東伸介

Priscilla Martin 博士：Feminism in *The Canterbury Tales*

第 32 回研究発表会 (1984 年 7 月 14 日、駒沢大学)

研究発表 (第 1 室) 司会 野口俊一

1. 小路邦子：マロリーにおけるアーサーとマルク
2. 大関啓子：チャーサーの “Pardoner’s Tale” における Contrary Images

司会 宮島澄子

3. 奥田宏子：中世サイクル劇と theatrical illusion

研究発表 (第 2 室) 司会 池上忠弘

1. 建部真子： *Troilus* における fictional narrator の二つの役割
2. 山田利一：チャーサーの女性描写について
3. 田巻敦子：『農夫ピアズの夢』と悔悛の秘蹟

[データ入力協力者：三木泰弘・和田忍]